

歴史散歩

No.29

高島市・春の祭礼めぐり

毎年4月から5月にかけて、古くからの様式や伝統を伝える春の祭礼が市内各地で行われます。

4月18日に行われる川上祭は、川上庄内（今津町北部一帯とマキノ町南部の一部）の春祭で、大竹に青・白・赤の紙の飾りをつけた大織の巡行や、小学生の子どもたちによる踊り子の囃しなどで知られています。その起源については、明確なことは分かっていないものの、一説には平安時代後期の長暦3年（1039年）に始められた



川上祭

とも言われ、古くからの歴史や独特の祭礼組織を伝える行事として知られています。

竹の先に四角い板をつけた的を持って練り歩く「奴振り」の行事で有名な大荒比古神社の七川祭は、嘉禎元年（1235年）、この地を本拠地としていた佐々木高信が、戦勝を祈願し、12頭の流鏝馬と12基の的を献納したのが始まりといわれています。現在、祭礼は5月4日に行われ、12基の的と2振の樽による奴振りや、流鏝馬1頭と役馬8頭による競馬が奉納され、毎年多くの見学者で賑わいます。

湖西唯一の曳山祭である大溝祭は、城下町大溝の商人たちの富と高度な文化的教養がつくり上げた祭礼であるといわれています。現在は、江戸時代、城下町として繁

栄した湊・巴・宝・勇・龍の5つの山組町がそれぞれ曳山をもち、毎年5月3日の宵宮と4日の本祭に巡行が行われます。また本祭では日吉神社境内に5基の曳山がそろう、その前で神輿振りが行われるなど、見所の多い祭りとしても知られています。

これら3つの祭礼は、滋賀県選択無形民俗文化財にもなっており、多くの氏子や地域の人々によって大切に伝承されています。

（文化財課）



七川祭

編集後記



ひと冬越えて蓄えられた生命が、さまざまな色を発し高島を彩ります。
（新旭町深溝で）

▼田んぼに水が張られ、水面がキラッキラツと輝いています。やがてそこは、人の営みによって淡い緑に染まっています。田植え前線の到来です。▼今月の表紙は3月31日に行われたOBC高島少年野球教室の様子をご紹介します。いつもはフェンス越しに眺めていた選手が、今日は170人の子どもの特別コーチに。じっくり、みっちり、時に笑いを交えながらの指導に、子どもたちの顔もほころびます。途中行われたデモンストレーションでは、選手たちのプレーに大人も子どもも釘付けに。目をキラッキラツと輝かせながら、「あんなふうになりたい。」「いつか一緒にプレイしたい。」「子どもたちの夢も膨らみます。夢があると実現する楽しみができますね。」「夢しか実現しない」「ビジネスフォーラムin高島での審査員の言葉を思い出します。夢の実現に向かって歩み続けるチームに、今年もご声援を！（広報担当〇）

